

# 令和4年度事業報告

## I 会務報告

### 1 皇室関係

- (1) 令和3年12月16日に皇嗣職宮務官長あてに発出した第61回全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式への皇嗣殿下のお成り願いに対して、8月9日、お成り日を11月10日とする旨連絡があり、10月4日、宮内庁長官あてにご臨席依頼書を発出した。
- (2) 10月27日、賞状伝達贈呈式に先立ち、永田会長が赤坂御所東邸において皇嗣殿下に第61回全国林業経営推奨行事受賞者の経営内容についてご進講した（沢田副会長、松本常務同席）。
- (3) 11月10日、皇嗣殿下のご臨席を仰ぎ、第61回全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式を挙行了した。
- (4) 11月18日、赤坂御所東邸に永田会長、沢田副会長および松本常務が皇嗣殿下お成りへの御礼記帳に伺った。
- (5) 11月30日、赤坂御所東邸で行われた秋篠宮皇嗣殿下誕生茶会に永田会長、沢田、吉川および沖副会長並びに松本常務の5名が参加した。
- (6) 令和5年11月初旬に挙行する第62回賞状伝達贈呈式への皇嗣殿下のお成りについては、12月16日、宮務官長あてにお成り願いを発出した。
- (7) 1月10日、赤坂御所東邸に永田会長、沢田副会長および松本常務が新春のご記帳に伺った。

### 2 会議の開催

- (1) 5月10日、理事・監事の都合により会場出席、オンライン出席のいずれかを選択できる折衷方式で第1回理事会を開催し、「令和3年度事業報告および決算に関する件」「定時総会提出議案に関する件」および「新規会員の承認に関する件」の3議案を審議・決定するとともに、「業務執行理事の職務執行状況」および「三会堂ビル建替中の仮住まいビルへの移転」について報告し、了承された。
- (2) 5月25日、新型コロナウイルス感染防止のため、会員に原則出席を控えて総会表決権委任状または議決権行使書の提出により表決に参加する方法で定時総会を開催したところ、会場出席38名に議決権行使書提出者275名および委任状提出者232名を加えると、同日現在の会員総数771名の過半数を占める545名の出席があり、「令和3年度事業報告および決算に関する件」「定款の変更に関する件」および「役員を選任に関する件」の3議案を審議して原案どおり承認された。次に、「令和4年度事業計画および予算に関する件」について報告した。

なお、総会に先立ち参与会議を開催し、林業経営「創意工夫」表彰行事で優秀賞を受賞した石川県の相内正志氏から「丸太検収アプリ『ログカウンター』の開発」について、奈良県のポロ・ビーシーエス株式会社から「現場の声を反映した林業用トラックの開発」について話題提供をしていただき、意見交換を行った。

- (3) 5月25日の定時総会の第2号議案で定款第2条の事務所の所在地を港区から千代田区に変更することを承認されたが、総会時点では事務所を移転する日が定まっていなかったため、この定款の変更は事務所の主たる機能を移転させる日をもって行うこととし、理事会において当該日を定めることとしていたが、その日を12月12日とすることが決まったので、11月21日付け4山林第22号で書面決議により第2回理事会を開催し、「事務所の主たる機能を移転させる日を12月12日と定める」ことを決議した。
- (4) 3月23日、会場出席とオンライン出席の折衷方式で第3回理事会を開催し、「令和5年度事業計画および予算に関する件」「令和5年度定時総会招集等に関する件」および「令和5年度第1回理事会開催に関する件」の3議案を審議して原案どおり承認された。次に、「業務執行理事の職務執行状況」、その他「常勤役員の報酬および定年の基準」の改正、「常務役員会設置・運営規程」の制定、「会費の免除または減免に関する内規」の承認等について報告した。
- (5) このほか、8月を除く毎月、常務役員会を開催し、会務運営の重要事項について協議した。

### 3 会員の関係

- (1) 令和5年3月31日現在の会員数は、正会員749名、特別会員32名、計781名となっている（令和4年3月31日比で23名の減少）。

### 4 公益法人関係

- (1) 内閣府公益認定等委員会に対し、6月27日に令和3年度事業および決算を報告するとともに、7月25日に役員変更の届け出、1月20日に定款変更の届け出を行った。
- (2) 3月24日、内閣府公益認定等委員会に対し、令和5年度事業計画書および収支予算書を報告した。

### 5 事務所等の移転関係

- (1) 令和5年度から始まる三会堂ビルの建替に伴う事務所等の日土地内幸町ビルへの移転については、4月に移転先のビルとして日土地内幸町ビルが決まり、新事務所のレイアウトの設計、内装・電気工事、什器調達など移転に必要な一切のPM（Project Management）業務をプラス株式会社に委託した。そ

して、9月にはフリーアドレスの働き方を志向したレイアウトが固まって内装工事等に着手し、12月には工事が完了して10～11日に事務所を引っ越し、12日から日土地内幸町ビルで業務を開始した。

- (2) 一方、林業文献センターについては、運び込む文献の量が膨大なため、事務所の移転に遅れること2か月、2月上旬になって書架を日土地内幸町ビルに運び込むとともに、文献は一旦澁澤倉庫株式会社に預け、毎週一定量ずつ日土地内幸町ビルに運び込み、書架に配架しており、4月には文献の運び込みを完了し、6月には開館できる見込みである。

## II 事業の実施

森林・林業を取り巻く諸情勢を踏まえつつ、1 普及啓発事業、2 調査研究事業、3 山林事業、4 林業文献センター事業の4つの公益事業と収益事業に取り組んだ。

### 1 普及啓発事業（公一1）

#### (1) 大日本山林会創立140周年記念事業

- ① 4月12日、当初2月15日に開催予定であったが新型コロナウイルス・オミクロン株のまん延により開催を延期していた「創立140周年記念シンポジウム」を開催した。
- ② 下記(7)の②に記述するとおり会誌『山林』に特集「平成林業逸史」を連載しており、これを取りまとめて書籍として刊行する予定である。

#### (2) 森林・林業に関する指導、奨励および普及

- ① 6月4日開催の「第50回全国林業後継者大会」（滋賀県多賀町）に永田会長が出席し、激励の言葉を述べた。
- ② 6月5日開催の「第72回全国植樹祭」（滋賀県甲賀市）に永田会長が出席した。
- ③ 11月12～13日開催の「第45回全国育樹祭」（大分県大分市）に沢田副会長が出席した。
- ④ 11月13～14日開催の「2022森林・林業・環境機械展示実演会」（大分県別府市）を沢田副会長と松本常務が視察し、出展企業と情報交換を行った。
- ⑤ 関係団体等の開催する会場出席やオンライン出席のシンポジウム等に幅広く参加し、情報の収集・交換に努めた。
- ⑥ 「緑の募金支援団体」としての募金協力、関係団体への活動支援などを通じ、森林・林業の奨励・普及に努めた。

#### (3) 森林・林業に関する講習、研修および講演会の開催

- ① 10月19～21日、前々年度、前年度と新型コロナウイルスの感染拡大防止のために取り止めとなっていた岡山県真庭・勝山地域での現地研修会を実施した。

- ② 2月15日に開催すべく準備を進めてきた「創立140周年記念シンポジウム」を4月12日に開催したことについては、(1)の①に記述したとおりである。
- ③ 東京大学の「大学院農学生命科学研究科森林科学専攻林政学研究室」および「アジア生物自然環境研究センター木材利用システム学寄付研究部門」において、永田会長が研究・教育に協力した。
- ④ 東京農業大学において「現代社会と経済」の講義を原参事が実施した。

(4) 海外への林業振興に関する技術援助

- ① 海外の法人会員等に対する会誌『山林』の送付等を通じ、海外への情報提供に努めた。
- ② 事務所の移転に伴い廃棄せざるを得なくなった本会発行書籍等計108冊を公益財団法人日本科学協会を通じて中国の12大学へ寄贈した。

(5) 森林・林業教育の振興および研究の助成

- ① 全国高等学校農業教育研究協議会をはじめとする関係団体と連携し、今後の森林・林業教育のあり方について情報交換・調査研究に努めた。
- ② 3月25～27日にオンラインで開催された「第134回日本森林学会大会」において高校生ポスター発表に協賛し、27日にオンラインで実施した表彰式で永田会長が挨拶し、最優秀賞等を受賞した高校生を始め参加した高校生を激励するとともに、同学会事務局を通じて記念品として参加24校全校へ本会発行の「日本の森林と林業—森林学習のための教本—」を1冊ずつ授与した。

(6) 森林・林業に関する発明、改良の奨励

9月1日から1月31日まで令和4年度林業経営「創意工夫」表彰行事の募集を行い、3月1日、審査委員会を開催して応募のあった3件を審査した結果、次のとおり優秀賞、奨励賞および特別賞を授与した。

なお、木の駅ひだかは、林家が持ち寄る林地残材等を地域通貨で買い取り、チップやバイオマス用材、薪等として販売することで、林家は収入が得られ、地域通貨が地域を潤す「木の駅」の原型となる特筆すべき取組であるが、現在、木の駅プロジェクトは全国に広まっており、隠れた創意工夫の取組を発掘して全国に紹介するという林業経営「創意工夫」表彰行事の趣旨にそぐわないので、優秀賞、奨励賞は授与せず、会長から特別賞を授与することとした。

優秀賞 小林 正典（大阪府）

シカを効率よく捕獲できる小林式誘引捕獲

奨励賞 都城コンテナ苗等生産部会（宮崎県）

林研グループが森林組合と協働で行うコンテナ苗生産の取組

特別賞 木の駅ひだか（高知県）

木の駅プロジェクトによる地域活性化の取組

(7) 森林・林業に関する刊行物の発行

- ① 会誌『山林』を第1655号～第1666号まで発行した。なお、8月を除き年間11回『山林』編集委員会を会場出席とオンライン出席の折衷方式で開催した。
- ② 『平成林業逸史』の刊行に向けて、前年度に引き続き、会誌『山林』に年度を通して毎月「特集 平成林業逸史」を連載するとともに、11月29日に第6回『平成林業逸史』編集委員会を開催し、第三陣以降の題材案・執筆候補者の選定等について協議した。
- ③ 第61回農林水産祭参加全国林業経営推奨行事受賞者の経営内容を要約した『選ばれた林業経営』を刊行した。
- ④ 『「脱・国産材産地」時代の木材産業』『日本の森林と林業』『昭和林業逸史』をはじめとする既刊本の販売に努めた。

(8) 森林・林業功労者の表彰

- ① 第61回農林水産祭参加全国林業経営推奨行事については、都道府県から推薦を受けた優良林業経営体について、2度にわたる審査委員会および大臣賞候補者については該当地域所管の森林管理局による現地審査を経て、農林水産大臣賞8点、林野庁長官賞16点の計24点を決定した。なお、11月23日に挙行された第61回農林水産祭に推薦した大臣賞8点のうち、渡邊定元氏（静岡県）が天皇杯を受賞している。  
11月10日に本会総裁秋篠宮皇嗣殿下のご臨席の下、賞状伝達贈呈式を挙行了。皇嗣殿下は、記念写真の撮影後、永田会長の先導で受賞者一人ひとりに温かいお声掛けをされ、ご退場された。
- ② 12月6日、伊勢神宮崇敬会が実施する農事関係功労者顕彰行事において、本会が推薦した群馬県の市川平治参与が林業部門で表彰された。また、永田会長が出席し、来賓代表として祝辞を述べた。

2 調査研究事業（公一2）

- (1) 令和3年度林業経済研究所委託調査「森林科学教育の現状と体系の再編—森林科学の専門教育に関する実態調査から—」の報告書を関係者に配付した。
- (2) 令和4年度は、「森林認証制度が林業労働者の労働安全に与える影響の研究」に関する調査研究を林業経済研究所に委託し、報告書を作成した。

3 山林事業（公一3）

- (1) 横川部分林の管理人が碓氷川森林組合の上原又樹組合長から同組合の谷川勝紀氏に交代するため、9月30日、松本常務および前澤参事が同組合の土場に行き、前管理人への感謝状の授与および引継ぎを行うとともに、現地の林況を調査した。また、帰路、毛呂山部分林に立ち寄り、林況を調査した。

- (2) 11月16日、奥多摩所有林での東京都による枝打ち事業の申込みを奥多摩町役場へ行い、2月3日、沢田副会長、仁多見理事、原、前澤および小田の5名が枝打ちの状況を視察した。
- (3) 12月13日付け4日光管第894号で日光森林管理署長から古賀志部分林の主伐に伴う意向確認があり、2月6日、松本常務、仁多見理事および前澤の3名が部分林の成長状況を調査に行き、スギもヒノキも生長が良く、特にヒノキは枝下高が高く、通直、完満で優良材が期待できるので、令和10年度に契約した全面積の販売を希望する旨回答した。
- (4) 3月28～29日、松本常務、仁多見理事、前澤および小田の4名で前年度に計画していたが賞状伝達贈呈式が3月にずれ込んだために調査できなかった久留里部分林と大多喜所有林の概況調査を行った。久留里部分林は雨が降り出し林内に入れなかったが、大多喜所有林は林内に入りヒノキが順調に生長していることを確認した。

#### 4 林業文献センター事業（公一4）

- (1) 7月5日、林業文献センター運営委員会を開催し、冒頭、日土地内幸町ビルでのセンター運営方法を説明した後、令和3年度の事業報告および令和4年度の事業計画を説明し、了承を得た。
- (2) 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団 東京都板橋福祉工場に委託して「増田文庫」書籍440冊および資料15袋（約500点）の電子ファイル化を行った。
- (3) 10月から旧職員の吉川比出夫氏を嘱託職員として雇用し、2人態勢で日土地内幸町ビルへの移転に向けて文献の整理、段ボール箱への箱詰め等を行うとともに、日土地内幸町ビルにおいては段ボール箱からの文献の取り出し、書架への配架を行った。
- (4) 令和5年3月31日現在、「収蔵文献・検索システム」に登録されている文献数は29,833件となっている。

#### 5 収益事業（収一1）

基本財産を有効に活用し、収益事業を実施した。